

診療内容

当院の標榜は耳鼻咽喉科です。
その内容としては、

1. 一般耳鼻咽喉科的診療
(耳・鼻・のどの疾患)

2. 私の専門である音声言語医学的診療
(声と言葉の障害<障碍>)

を2つの柱としております。

1. 一般耳鼻咽喉科的診療

耳・鼻・のどの疾患の外来的診療を行います。風邪や花粉症(アレルギー性鼻炎)、中耳炎、副鼻腔炎(いわゆる「蓄膿」)、難聴、耳鳴りなど、耳・鼻・のどの疾患は非常に多岐で身近なものが多くあります。聴力検査装置やファイバースコープなどの精密検査用機器も取り揃え、所見と実証に基づいた診断・治療を行います。

また、手術や入院が必要な場合、出身大学である東京大学附属病院や、近隣の国際医療福祉大学三田病院、日赤医療センター等と緊密な病診連携のもとに迅速に適切な病院・医師をご紹介申し上げます。

2. 私の専門である音声言語医学的診療 (声と言葉の障害<障碍>)

東京大学音声言語研究施設やイェール大学ハスキンス研究所等での臨床及び研究の実績を生かし、声・ことばの障害(障碍)全域を専門的にカバーします。ストロボスコーピーや音声解析などの音声言語医学的検査による詳細な所見をもとに診断し、言語聴覚士による音声・言語治療も含めた適切な治療を行います。特に、痙攣性発声障害の診療に関しましては、日本でポツリヌス・トキシンの声帯筋内注射を行える数少ない医師の一人として、積極的に活動しております。

音声言語医学

1 音声言語医学とは



音声言語医学とは、「声」と「ことば」を扱う医学で、声帯ポリープ等のように実際に声帯に病変が見える疾患(器質性発声障害)のみならず、心因性発声障害・言語障害(発音の障害、失語症等)といった幅広い疾患群をその対象とします。また、適切な発声法の指導や、話し方の訓練といった、健常な方がより高いレベル、

即ち、supernormalをめざす分野も含まれます。

よりよい「声」と「ことば」によって日常におけるコミュニケーションの質を高めることを目標とする音声言語医学は、Quality of Life が重視されるこれからの医療において、今後重要性を増す分野となるであろうことは間違いありません。

また、先代のアメリカ大統領Bill Clintonの声囁きがアメリカ社会では非常に評判の悪いものであったことが象徴する様に、これからの社会では、歌手やアナウンサーといった声を使う職業の方(Professional Voice Users)のみならず、会社などの組織において指導的立場にある方々や政治家などにもより勝れた説得力をもつ「声」と「ことば」が要求される時代になってきています。

当クリニックは、後述する音声言語外来の設営・言語聴覚士による訓練・ボツリヌストキシン声帯筋内注射・喉頭筋電図外来の設営等、大学病院レベルでも達成できない高度な医療を行うクリニックであることを目指します。

2 言語聴覚士による音声言語訓練

音声言語関連の疾患の性質上、医師による外来診療だけでは患者のニーズに答えきれないケースが多い。そこで、言語聴覚士を置くことにより、言語・音声訓練が必要な患者に対応可能になります。手術や薬では治しにくい障害も音声言語訓練にて改善するケースが多くあります。



音声言語検査室・言語聴覚士が声やことばの障害の患者さん
に訓練や検査を行う専用の部屋です。

3 日本で唯一：ポツリヌス・トキシンの声帯内注入術



痙攣性発声障害 共著 熊田政信

痙攣性発声障害という、発声時に声がか不随意につまったりとぎれたりする原因不明の疾患があります。私は長年、ポツリヌス・トキシンの声帯内注入術による痙攣性発声障害の治療を日本で唯一行っている小林武夫先生(元東大助教授)とともにこの治療法に携わってきました。ポツリヌス・トキシンの声帯内注入術は特殊な技能を要し、その症例数は日本で一番多く、この15年間に200症例以上に1500回以上の注射を行ってきました。現在保険適応になっていないこの治療法を、自由診療という形で継続します。

毎月 第2・4土曜日 3時から(要予約)
料金:3万円+消費税(1500円)

4 喉頭筋電図外来

大学病院からも紹介のあるアカデミックな診療

音声言語障害においては、発声・発音器官の筋電図がその診断に大きな役割を果たすものがあります。声帯運動障害における麻痺の有無や麻痺のステージの評価、痙攣性発声障害などの神経学的あるいは機能性発声障害の診断、運動ニューロン疾患や重症筋無力症などの神経原性・筋原性疾患の診断などであります。ところが、発声・発音器官の筋電図は、大学病院レベルの耳鼻咽喉科でも行っているところは非常に少ない。この様に高度で専門的知識を要する喉頭筋電図を、私は東京大学音声言語医学研究施設時代から一貫して行って参りました。当クリニックにおいても、「喉頭筋電図外来」を設営し、大学病院レベルからも紹介される、高度な医療を提供するクリニックとして活動して参りたいと思います。



喉頭画像システム:声帯の動画
や声を出している時の声帯の
振動を画像化するシステムです。

その他の得意分野

いびき・睡眠時無呼吸症候群

睡眠時無呼吸症候群とは、睡眠中頻繁に呼吸が止まる疾患であり、昼間の激しい眠気や、心疾患の引き金となるなど、患者さんの日常生活の質を大いに低下させます。これは社会的にも大きな問題を起こすことしばしばであり、チェルノブイリ原発の操作を行っていた責任者が睡眠時無呼吸症候群の患者であってその居眠りが原因での悲惨な事故が引き起こされたのはあまりにも有名です。その他にも、運転手の居眠りによる交通事故のかなりな割合がこの疾患がかかわっていると考えられています。

この疾患の頻度は非常に高く、いわゆる「いびき」をかく方の多くがこの疾患を持つと考えられますが、その原因としては耳鼻咽喉科領域に関連したものが非常に多い。即ち、鼻づまり、狭いのど、舌根の沈下などです。従って、睡眠時無呼吸症候群の診断・治療における耳鼻咽喉科医の役割は非常に重要です。当クリニックにおいては、いびき・睡眠時無呼吸症候群の診断・治療を積極的に行っております。自宅で睡眠時無呼吸の検査(アプノ・モニター)ができます。簡単に装着できる超小型(携帯電話くらいの大きさ)の検査装置で、睡眠の邪魔にもなりません。この検査は保険適応ですので、患者様のご負担額は、3割負担の場合で2500円程度です。

補聴器適合判定医師

私は、全国でもその数が限られている、補聴器適合判定医師の資格を持っております。

嚥下障害

嚥下障害の患者は非常に多く、食べられるのに食べていない患者さん、あるいは、食べてはいけないものを食べさせられている患者さんがかなりいます。つまり、適切な診断と指導を受けられない患者さんが潜在的にかなりいるということです。私は以前、国立身体障害者リハビリテーションセンター(国リハ)に約4年勤務しておりました。したがって、この分野は得意としております。国リハとの連携を図りながら、嚥下障害などの診断や訓練指導、気管孔管理等を行える数少ない医師の一人と自負しております。